

ひまわり在宅ケアステーション 高橋 旭

功 績 人一倍の努力で困難事例受け入れの風土を定着させ、より良い職場環境を創造してきた功績。

推 薦 者 佐藤 俊之

推 薦 理 由 新しい職場で利用者さんや職員から自分自身を受け入れられるために人一倍努力してきた、また他の職員が日々働きやすくなり、より良い職場環境作りに貢献してくれてきた高橋を理事長賞候補に推薦します。

内 容

高橋旭は当初デイサービスで勤務していたが、人前で話すのが苦手で自分の力を発揮できず、なかなか成果が出せずにいた。その後在宅ケアへ異動となり、心機一転を図ったが、訪問サービスはどうしても「女性の職場」というイメージが強く、職員、ご家族から受け入れてもらえない時間が続いた。

高橋にとって転機となったのがある障害の利用者さんとの出会いであった。看護師と同行訪問し、排泄の介助をおこなう際に、頸椎損傷で四肢麻痺の方なので腹圧がかけられずお腹を押して排泄を促すという支援となった。体格も良い利用者さんであった為、女性の介助では不十分だった。男性ならではの力の入れ方で毎日訪問しているうちに「旭君でないとダメだ、旭君だとスムーズに出るんだ」とその利用者さんにとって頼られる存在となった。自分なりに看護師に確認しながら日々どうしたらうまくできるのか考え、努力した結果が実った瞬間だった。それを機に自分の事だけでなく、利用者さんのケアはもちろん、職員がどうしたら働きやすい職場になるのかを考え、常に今自分にできる事、「週間訪問予定表の更新、衛生材料の確認と補充、業務日誌の補充、また日々の訪問スケジュールの最終確認と連絡」を率先して行ってきた結果、今では皆に頼りにされる存在になっている。訪問に関しては月に150件以上訪問を行う一方、特に困難ケースについて率先して自分で請け負い、他の職員の負担を一手に引き受けるなど、模範的な行動を続けている。結果として月間3,000件強の訪問件数の内訳として、高齢者を対象にした訪問介護が全体の6割、障害者は4割と、障害に強い訪問介護ステーションと認知され、その一助を高橋が担っている。

また、在宅ケアでは今秋からICTを導入。高橋はITに強く、操作が苦手な職員に対して自らが講師となり少しでもICTの普及がスムーズに行えるようにサポートしていった。年配の職員からも「旭君に聞きながらやれば大丈夫」と信頼されるようになり、人事考課で目標に「ICTに強くなる」とあげる職員も増加した。

もともと優しい性格から利用者さんからの受け入れ、特に知的障害をお持ちの方、女性の高齢者の方からの受け入れ、は在宅ケアで最も高い評判を得ている。